

環境についてみなさんもう一度真剣に考えてみませんか？

「めだかの減少について」

Save The Kikuti River

メダカサン メダカサン
オオゼイヨッテ ナン
ノソウダン…「メダカ

ノガツコウハ カワノナカ…」昭和の初期、小学校に入学すると国語や歌の本に出てくる魚は、まずメダカでした。野外に水の流れているところには、たいいてい十数匹のメダカの群れが水面近くを泳いでいたので、特に食用にしたりする魚ではありませんが、人間生活に一番身近な魚だったのです。それだけに地方名も多く、日本だけでも五千以上数えられているそうです（佐原雄二※1）。東京ではメダカ・メザカ、京都ではウキンチャ・オキンチャ、大阪ではコマンジャ・コマメンジャコ、和水町では小さな魚の総称でゾナメなどと呼ばれています。しかし、個体数の減少や学校教育と図鑑の普及によって地方名はだんだん忘れられていきました。分布域は本州以南から沖縄まで及ぶのですが、近年北海道でも移植による分布が認められています。外国では中国、台湾、ベトナム、スリランカ、フィリピンなどに自然分布し、アメリカの一部でも移植されたものが野生化して繁殖しています。

春から夏にかけて産卵し、一回の産卵で十個の卵を産み、早期に生まれた個体はその年にすでに産卵に加わることもあるということです。温度差に対する耐性（4℃～30℃）や、耐塩性も強く、

繁殖力もあり、体は小さいけれども非常に逞しい魚です。

このようなことを考えると、絶滅が心配されるような魚ではなさそうですが、実際は都会やその周辺はもちろん、日本全体の個体数が非常に少なくなっています。和水町を探してもなかなか発見できません。今年の梅雨前、情報が入ったので早速出かけて行きましたら、福田橋の近くの川で確認することができました。しかし梅雨の大水の後は姿が見えなくなりました。

食性は動物性・植物性プランクトンやボウフラなど雑食性で、日中浅いところで盛んに餌を食べ、夜はまったく活動しない顕著な昼行性です。一般に浮いた物を食べるのに都合の良い口の構造になっているので、底に沈んだものを食べるのは苦手のようです。

色は普通茶色がかった灰色ですが、突然変異によってカラーメダカと呼ばれるいろいろな色があります。ヒメダカ、シロメダカ、クロメダカなど観賞用として流通しているようです。アルビノ（※2）は色素細胞が全くなくて体が透明なので、脳や内臓まで外から見えます。解剖しなくても生きたまま内臓を観察できるので、生態学や医学の研究のために利用されています。

自然の変化に対する適応能力にすぐれ、繁殖能力も強いメダカがなぜ絶滅



▲めだか

の危機に瀕しているのか？それは、農薬、生活排水、工場排水など人為的な環境悪化にきめんに弱いからのようです。それに護岸工事、水路のコンクリート化によって大水の時の隠れ場所、安全地帯がなくなってしまうということが大きな原因ではないでしょうか。

最近、環境省のレッドリスト絶滅危惧種Ⅱ類（絶滅の危惧が増大している）に指定されています。どこにでもメダカが泳いでいるような、のどかな風景が再び見られるような環境に配慮した和水町にしたいものです。

※1 佐原雄二…環境生物学講座・教授
※2メラニンの生合成に係わる遺伝情報
の欠損により先天的にメラニンが
欠乏する遺伝子疾患、ならびにその
症状を伴う個体のことである。

皆さんの応急手当が「命」をまもります

急病で倒れたとき、大ケガをしたり、突然、呼吸や心臓が止まった人には、周りにいる人々から適切な応急手当を受けたかが、救命率を大きく左右します。救急車が到達するまでに時間を要するケースもあり、現場に居合わせた人の応急手当が重要になってきます。

有明管内の救急車の出動件数は、年間6,723件(平成20年度)です。常に管内の住民の安全を保つために、応急手当の普及は大変重要です。

「救マーク」制度を開始

有明広域消防本部では、平成21年7月から「救マーク」制度(応急手当基準適合表示制度)を始めました。この制度の対象は、管内の宿泊施設、物販店、工場、福祉施設、スポーツ施設、遊技場、飲食店、学校及び保育所などの多様の人を収容する施設や事業所が該当します。「救マーク」表示を施設の受付などに掲示することで、利用者にとって安心して利用してもらえる施設であることをアピールできるしくみです。

認定要件

認定要件は次のとおりです。

- (1) 救命講習のうち応急手当普及員講習又は応急手当指導員講習のいずれかを受講している施設関係者が、営業時間中又は公開時間中に勤務し、速やかに応急手当等が実施できること。
- (2) 自動対外式除細動器(AED)及び三角巾・伸縮包帯等の応急手当資器材を備えていること。



▲「救マーク」

当消防本部では平成21年10月26日(月)に、和水町にある「菊水ひまわり園」に「救マーク」認定第一号を交付しました。

さらなる「救マーク」の認定の普及に向け皆様のご協力をお願いします。

問い合わせ先 有明広域消防本部 救急課 ☎0968・73・5283